

平成29年12月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成29年12月19日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	14時00分	
	閉会	14時45分	
3 出席委員	教 育 長	菅 野 和 良	
	委 員	奥 津 晋	
	委 員	塩 田 澄 子	
	委 員	藤 原 佳 代 子	
	委 員	石 井 希 典	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	安 田 充 年	教育次長	天 野 和 弘
統括審議監 (企画調整担当)	小 西 洋 史	審議監 (学校教育担当)	三 宅 泰 司
審議監 (社会教育担当)	澤 岡 哲 雄	審議監 (企画総務担当) (教育企画総務課長事務取扱)	村 田 守
教育給与課長	神 原 徹	指導課長	岡 林 敏 隆
指導課教育支援担当課長	服 部 道 明	保健体育課長	山 田 裕 史
審議監 (企画総務担当) (こども企画総務課長事務取扱)	吉 實 達 男	教育企画総務課課長補佐	澤 谷 好 太 郎
地域子育て支援課課長補佐	田 中 光 彦		
事務局 (教育企画総務課課長補佐)	生 田 裕 宣	事務局 (教育企画総務課指導副主査)	林 俊 雄
5 議題及び結果			
報告第 31 号	専決処理の報告 (市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	
報告第 32 号	専決処理の報告 (市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	
6 教育長等の報告 [平成29年11月11日 (土) ~平成29年12月8日 (金)]			
11/11	自然体験リーダー養成講座 step3-③	地域子育て支援課	
11/13	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、保育・幼児教育課	
11/14	教育長学校訪問	教育企画総務課	
11/14	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課	
11/15	教育長学校訪問	教育企画総務課	
11/15	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課	

11/16	教育長学校訪問	教育企画総務課
11/17	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課、保育・幼児教育課
11/17	子どもが輝く学びづくりプロジェクト	指導課
11/18	市学童陸上運動記録会（雨天中止）	保健体育課
11/21	小規模 I C T 遠隔合同授業（市長及び教育長視察）	指導課・就学課
11/21	第 1 回総合教育会議	総務法制企画課
11/22	教育長学校訪問	教育企画総務課
11/23	おかやまイングリッシュビレッジ事業「留学体験 in 福谷」	地域子育て支援課
11/24	教育長学校訪問	教育企画総務課
11/30	「特別支援教育の視点を生かした授業づくり実践研究」研究成果発表会	指導課
12/1	教育長学校訪問	教育企画総務課
12/5	平成 2 9 年度岡山市立岡山中央小学校外国語（英語）活動・国際理解活動公開授業研究会	指導課
教育長	<p>○ 次期の教育長職務代理者の指名について説明をする。</p> <p>改正「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第 1 3 条第 2 項『教育長に事故のあるとき、または教育長が欠けたときは、あらかじめその指名する委員がその職務を行う。』とあり、教育長職務代理者は、教育委員の中から教育長があらかじめ指名することとなっている。現在、教育長職務代理者は奥津委員にお願いしているところであるが、奥津委員はこの度 1 2 月 2 3 日をもって教育委員の任期を満了され退任されるので、次期の教育長職務代理者を経験豊富な委員の中から、あらかじめ指名しておきたいと思う。それでは、次期 1 2 月 2 4 日からの教育長職務代理者に塩田委員を指名するので、よろしく願う。</p> <p>なお、教育長職務代理者の任期は法律での規定はなく、当該教育長が別の教育委員を指名するまでか、新たに任命された教育長が新たに職務代理者を指名するまでのいずれかになる。また、教育長職務代理者たる委員が行う職務のうち、具体的な事務の執行と職務代理者が自ら教育委員会事務局を指揮監督して事務執行を行うことが困難である場合には、同法第 2 5 条第 4 項に基づき、その職務を教育委員会事務局職員に委任することができる。本市においては、この場合の事務局職員を教育次長としている。</p> <p>説明は以上である。塩田委員、よろしく願う。</p>	
塩田委員	○ よろしく願います。	
教育長	○ 次に、事業報告について、何か質問はないか。	
奥津委員	○ 小規模 I C T 遠隔合同授業について、この日に会議があったのでその時に内容は聞いたが、今後これをどのように生かして利用していこうと考えているかお聞きしたい。	
指導課長	<p>○ この日は、子どもたちの意見交換はうまくいったが、まだ慣れていないという反省もある。もう少し深い議論、子どもたちのやりとりがあってもよいという声が出ている。今後は、単なる意見交換ではなくて、お互いが議論し合うような授業を進めていく。そして、それから、エリアをいろいろ広げていくことを考えていきたい。</p> <p>実は、先日も新たなペアということで、五城小学校と小串小学校をつなぐチャレンジをして、うまくいったという報告を受けている。今、それぞれ 4 ペアをつくっているが、固定化したペア以外のところへもどんどんつなげていきたいと思っている。また、あわせて積極的に市外や県外の学校、もっとエリアを広げて、海外の学校ともつなぐようなことにもチャレンジしていきたいと考えている。</p>	
教育長	○ どんな授業だったかをご存じないかもしれないので、説明願う。	
指導課長	○ 当日は、福渡小学校と竹枝小学校で、同じテーマで調べたことについて発表して質疑を行うという授業で、2 時間構成の 2 時間目を実際に見ていただいた。テーマは、建部のよいところを探そうということで、それぞれの祭りや特産物などについて調べた内容を、まず 1 時間目でお互いに意見交換して、次に、岡山市として捉えたときに、岡山市のよいところはどうかということ意見交換をした。	

<p>藤原委員 指導課長 藤原委員</p>	<p>中でも印象深かったのが、竹枝小学校の子どもから、活断層は岡山市にあるのかという質問があり、市長がわかりやすく答えられたとか、ももちやりというのはどういう言われがあるのかという質問に対しても、市長が、ももちやりと言うけれども、色はマスカットよと、ああ、そうだったのかと……そんなやりとりであるとか、岡山マラソンの話題とか、岡山を代表するようなものについての意見交換という内容であった。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ この2つの小学校は、同じ中学校へ行くのか。 ○ 同じ中学校である。 ○ どちらも建部中学校に行くのか。そういう組合せもありだと思ふ。小規模校と小規模校でも、先程言われていた、例えば小串小学校のような海のそばの学校と、それから山の付近の学校とは違いがあると思ふので、そういうのを組み合わせるのも、岡山市は広くなったからおもしろいと思ふ。 それから、今、お聞きしていて、海外との交流というのは、昔は、結構、岡山市の学校に姉妹校などあったが、今はそういう交流はできているのか。</p>
<p>藤原委員 指導課長 藤原委員</p>	<p>○ 旅費、その他の面で、こちらから現地へ行くというのは非常に難しい部分がある。逆に海外の学校から日本の学校へという例は、例えば台湾の学校が芳泉中学校へ来るといふ事例は幾らかある。最近増えてきたのは、E S Dと関連させて、海外の学校と同じようなネットでの交流ということで、例えば三勲小学校とオーストラリアの学校や、それから、今後は岡山後楽館高校とブルガリアの学校のつながりを考えている。ブルガリアについてはホストタウン事業の一環として進めていくが、そういった広がりが少しずつ出てきたという状況である。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ とてもよいことである。実際に行ったり来たりするのは、旅費の関係などがあると思ふので、英語が学校で定着しつつあるのなら、このテレビ会議でぜひ海外ともつないであげたらよいと思ふ。費用的にはどうなのか。 ○ ほとんどかからない。 ○ だから、ぜひ、単なるICTの授業だけではなくて、国際交流などの子どもたちの育ちに使ってあげたら、とてもよい授業ではないかと思ふ。 もう一つは、以前にここで言ったことがあるが、市長が間に入るというのはどうか。本当は子ども議会みたいなものがあれば、子どもたちが将来の岡山市政や岡山のまちづくりに随分興味を持てると思ふが、負担は大きい。としたら、市長のような市政のトップにいる人と子どもたちが、まちづくりという意識はないかもしれないが、どんな町であってほしいとか、どんな政治をしているとかいったりするのは、社会科の勉強とも絡めて、市長が間に入ってくださったら、それは身近になってよいと思ふ。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 関連して、同じところだが。これは1対1でつなぐことはできるけども、多チャンネルというか、いろいろな教室をたくさんつなぐという、そういうことも可能なのか。 ○ 1対多というのは、少し難しいと聞いている。まずは1対1で充実させていきたい。物理的に難しいということである。</p>
<p>教育長 藤原委員 教育長 藤原委員 石井委員</p>	<p>○ できないことはないか。回線の関係で難しい。 ○ それは費用が大分かかるのか。 ○ 費用の問題だけではない。 ○ あればよいと思ふ。 ○ もしできたら、市長と全部の小学校がつながるといふことが、技術が進歩していったら可能性はあると思ふ。</p>
<p>石井委員</p>	<p>○ 今、小串小学校の話も出たが、今月も教育長が各学校を訪問されていて、差し支えなければ、可能な範囲でその状況をお話いただければと思ふ。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 中学校は吉備中学校と、それから香和中学校に行かせていただき、今年行きたいと思っていた11校は全部終わった。 それから小学校は小串小学校と、それからこのICTの遠隔合同授業で竹枝小学校に行った。竹枝小学校は少し早目に行って校長と話をし、学校訪問と兼ねた。そして、箕島小学校と角山小学校へ行ったので、行きたい学校は残り4校となった。また1月に頑張る。 吉備中学校は、非常に大きな学校だが、授業の工夫をいろいろされていて、落ち</p>

着いた雰囲気に取り組んでいたと感じた。

それから香和中学校も、本当にきめ細かな取組をされていて、学区の小学校で自由勉強というのを一生懸命やっていた。ノートを1冊配って、自主的に勉強していく、そういう取組だが、せつかく小学校でそういう習慣がついているのだったら中学校でもやりましょうということで、自分で課題を見つけて、自分でノートを使って勉強していくというのをやっている。これも非常によい取組だなと思う。

小串小学校はこの2月に校舎の新築の竣工式というか開校式があるが、バリアフリーで非常によい木のおいがたっぷりする、非常によい雰囲気の学校になっていた。ここは今、29人ぐらいだったか。複式ではあるが、それでもやはり話をさせるなど、家庭教師状態にならないように、子どもたちで意見を闘わすというのをいろいろ工夫して頑張っていた。ここはESDの取組でアマモの栽培をやっている。海の中でやっているということもあり、子どもたちが自信を持って勉強をしているというのを校長先生から伺った。

それから竹枝小学校は、40人ぐらいだが、半分が他県の移住者である。今、増えていないので、この子どもたちが抜けると、またぐっと少なくなる。たしか、移住者の影響で低学年は複式が解消されている。

それから箕島小学校は、岡山市内の南の方では唯一備前ではなく備中に属するところの学校で、落ち着いていて一生懸命勉強していたが、課題は、道が狭くて、それから通る通学路が非常に少ないので、交通事故の危険性がものすごくあるということを心配されていた。この学校もしっかり学力に力を入れている。

小さな学校が多かったが、先月と一緒に、それぞれ工夫して学力を向上させようということで、しっかり取組をされていたのが印象的であった。

石井委員

- 私は香和中学校区の横井小学校にいて、当時も自由勉強というのがあり、自由勉強したら先生が点数を毎日加算してくれるという制度で、すごくやる気になった記憶がある。自由だからこそやる気になった部分があったとっていて、それがずっと続いて今もやっているのかわからないが、当時を思い出して、非常によかったなとっている。

藤原委員

- 以前、学力の調査に福井県に行ったときに、自由勉強で学力が部分的に高くなっているということを知った。

今のところ、教育長が中学校や小学校をたくさん訪問されて、雰囲気を伝えてくださってありがたいが、この前の総合教育会議で、中学校の授業が落ち着いているかどうかということについてデータを見て論議をしたが、現場から見るのと数字であがっているのと市長の感覚と、少し乖離（かいり）していたような感じがした。あれは現場の先生が自分たちに厳しく調査しているからなのか。でもデータはデータで、あれだけの有意差が出るということは、やっぱりその傾向があるのか。教育長が回られてみて、中学校は、今まで聞いた中ではどこも落ち着いて授業ができていた感じがしたが、そのあたりはどうか。

教育長

- 今から20年近く前の藤原委員と一緒に指導課にいた頃だと、中学校へ行くと、いわゆる授業中の私語は当たり前だったし、立ち歩くとか、机に伏せているとか、とにかくもう、先生の話の話を全く聞いていないという学校が多かった。私は英語の担当だったので、全部の学校にALTを派遣して一緒にいて授業を見たが、そういう授業がとて多かったように思った。今はもう、全然そのようなことがない。もちろん全ての学級がそうかと言ったらそうではなく、課題があるクラスもあったが、先生が廊下で休憩時間を過ごしているとか、一緒に教室に入って、少し課題のある子に寄り添って授業と一緒に受けているとかということが、当時は一部の学校だけで全部に広がってなかった。今は、それを当たり前のようにやっている。この前の総合教育会議の議論は、校長先生方が、例えば規範意識や、学校が落ち着いているかどうかということに対しては、非常に自分たちに厳しく見ていると私は思った。だから、厳しい数字が出ているのだろうとは思いますが、決してそのようなことはなく、よい例が、子どもたちがきちんと決まりを守っているかどうかという意識が非常に高いわけである。私は、それが一番正しいのではないかと思う。先生の評価が、自分たちに厳しいのではないかと感じた。

藤原委員

- 実際、学校を回ってみられて、そのように感じていることの方が実態に近いのではないかと思うから、現場の先生に自信を持ってもらえるように、教育委員会から

	<p>伝えてあげればよいことだと思う。</p> <p>ただ、一方で目指すところはまだいくらでも高みはあるわけだから、そういうところは目指さないといけないと思うが、余り極端に、これができてない、これができてないということにならなくてもよいという気はした。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ そう思う。小学校と中学校でもかなり文化や授業も違っていて、小学生は基本的にテレビのコマーシャルからコマーシャルまでしか集中してくれない。十一、二分と言われている。だから、その十一、二分は集中するからそれをやるが、またそれだけ時間がたつと、少し新しいことを入れてみるなど、いろいろ授業を工夫していかないと授業が成立しない部分がある。大体45分の1時間を3つぐらいに分けて計画を立てるが、中学生はそのようなことはないので、1時間集中してくれるということもある。その中学校の先生たちが、授業の形、グループ学習を取り入れたりとか、ただ単に一方的にしゃべる講義形式ではなくて、例えば教室も普通の数学の授業なのに、コの字型にした授業にしたりするなど、いろいろ工夫されている。小学校の様子も参考にされていると聞いた。だから、本当に、子どもたちが主役になった授業をしようとしているということを感じる。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 14番のイングリッシュビレッジと、18番の指導課主催の分と、これらは子どもたちが参加するものと先生方の研修と意味合いが違うと思うが、これらを何か連動させるようなことはしているのか。成果の連動であるとか、例えば教育委員会と地域子育て支援課とが情報交換をすとかということはあるのか。それとも性格が全く違うものだから、独立独歩で行われているのか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ それぞれ目的が違う。指導課の公開授業研究会は、やはり小学校の授業づくりということで、授業研究に特化したもの。ただ、イングリッシュビレッジでもALTを派遣して行っていることには違いがないので、当然、情報収集をしていかなければいけないと思う。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ このイングリッシュビレッジにも、岡山市のALTが何人か派遣というか携わっているということか。1回の授業で何人ぐらいALTは行っているのか。</p>
<p>地域子育て支援課課長補佐</p>	<p>○ 今回58人の参加で、10グループに分かれて、6人に1人の外国人の方。それに日本人で英語が堪能な人が1人。大学生ボランティアが1人ないしは2人グループにつくという形で、子どもたちにとっては、はじめて英語を使ってみましょうというような会になっている。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ イングリッシュビレッジはもちろん英語活動に近く、指導課がやられているのは、これからは本当の英語科に近いものになっていくのだと思うが、ALTが共通で絡んでいるということは、やり方などについて情報交換ができる機会があったらやってほしいと思った。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ 最後の岡山中央小学校の英語活動の公開授業研究会について、39人というのは期待をされていた人数どおりなのか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 少し寂しいというのは印象としてある。これは時期的にこの11月の下旬から12月が、いろいろな研究会や公開授業が多い時期なので、分散してしまったという印象は拭えないが、ただ、岡山中央小学校でやっておられることは、来年度以降の小学校の外国語活動に役に立つ、必要な情報だと思うので、また改めて情報提供していきたいと思っている。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ たちまち4月から3年生、4年生で英語活動を始めるということであれば、もう少し関心を持って数多く行かれるのかと思っていたが、そういうことであるのか。</p> <p>それからもう一つ、イングリッシュビレッジで使用している福谷小学校の跡地について、その利用はどのような感じなのか。</p>
<p>教育長 地域子育て支援課課長補佐</p>	<p>○ 今回少し議会でも出たが。</p> <p>○ 福谷小学校に限らず、いろいろなところがあり、これらの所管は学校教育の方でしているが、活用のアイデア募集等、財政局の財活マネジメントで取り仕切っているという形になっている。よいアイデアが出るが、まだ採用までは至っていない状況である。</p>
<p>教育長 藤原委員 教育長 藤原委員</p>	<p>○ もったいない。</p> <p>○ 地域の人は自由に使えるのか。</p> <p>○ 自由ではないが、使っておられる。</p> <p>○ 16の特別支援の関係で、ユニバーサルな授業がだんだん進化してきていると思</p>

<p>指導課教育支援担当課長</p>	<p>うが、以前に比べて大きく変わってきたことがあれば教えてほしい。</p> <p>○ ここに示しているのは特別支援教育の大学の専門の橋本先生がつけられた一覧表である。授業で児童が困る重大要素ということで、一番左の列に1から10まで、子どもの困り感を並べてある。その右側に想像される原因背景ということで細かい項目が書いてあって、その原因背景に対して、右側に考えられる授業中の支援をまとめられている。</p> <p>これは6年生だが、このクラスでは、全てのクラスでいろいろなことに困り感を抱えている子どもを3人ピックアップする。その子ども、A君、B君、Cさんと位置づけて、A、B、Cというのは子どものことである。A君は、例えば一番上の見通し理解が苦手、多動性がある、持続的注意が苦手というのがA君の特徴である。そのA君に対して右側、考えられる授業中の支援ということで、座席の位置を工夫したり、授業の見通しを持たせたり、机間指導で意図的に声をかけたりという手だてを打っていると。これは実は印刷していないが、指導案にも反映させておられる。そういうことを、A君、B君、Cさんにとってわかりやすい、学びやすい授業づくりをしていくと、他の三十何人に対しても当然わかりやすい、学びやすい授業につながっていくというような手だてについて実践研究されている。</p> <p>当日は59名の参加で、幼稚園の先生など結構たくさん来てくださっていたが、そういう手だては幼稚園でも使えるというような前向きな意見が多かったと聞いている。これらを市内に広めていきたいと考えている。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 上手にまとめてくださっていて、おもしろいと思った。例えば、現場の先生はその特別支援教育のときにカテゴリー化はしているのか。例えば、学習障害とか、ADHDだとか、広範性でこういう傾向があるから、こういうデザインをすとか。そういう形で集約をしていないのか。</p>
<p>指導課教育支援担当課長</p>	<p>○ カテゴリー化すると、どうしても先程言われた重なる部分であるとか、逆にこのカテゴリーに入るだろうなと思うけども、別のあらわれ方をするようなことがある。このアプローチというのは、カテゴリーではなくて、できないことをピックアップするというアプローチである。いろいろなアプローチがあってよいと思うが、江西小学校が取り組まれたのは、できないことをピックアップして、そこへ手だてをしていくこと。それがユニバーサルな授業づくりにつながっていくのではないかとこのアプローチ。広範性発達障害だからこういう支援が合っているのではないかとこのアプローチが違う。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 広範性発達障害については全員が診断を受けているわけでもないだろうから、教員も含めて素人の私たちが、そのようにするのは少し難しいし、危険なこともあると思う。しかし、今の応用ができるかできないかということに関しては、できないことの共通性はあると思うから、そういうことを共有化していけば、最終的には発達障害の中に入るようなことの共通項ができるという気はした。</p> <p>この前の新聞記事で岡山県のものも出ていたが、あの出現率のパーセンテージはどうか。小学校から中学校で、激減ではないが、減っている。あれは、対応が、こういうことが折り合うから減るのか、時代とともに検証する能力が高くなるから小学校の出現率が高いのか、はたまた他の理由なのか。どのような状況か。</p>
<p>指導課教育支援担当課長</p>	<p>○ 一番は、保護者の意識の中で、早期支援が望ましい。早目早目に適切な支援を行うことで、逆にできることを増やしていくことが適切であるということが、読み物には随分たくさん書かれるようになった。そういう意味の保護者のハードルが下がってきたので早期支援が進んでいる。</p> <p>一方で、中学校で支援学級から通常の学級へ転籍する子が多いのは、やはり支援の問題である。知的障害のある子は、特別支援学校や高等支援学校という選択肢が選べるが、知的障害がないお子さんで、発達障害が特に重いお子さんも含めてだが、高等学校の受験を考えないといけないというときに、数十名の子どもの中での学習の経験やコミュニケーションだけで、面接する力や自分をアピールする力を身につけるなど、そういうことを考えたときには、早いうちから通常の学級へ転籍した方がよい。入り口のところは特別支援学級で始めて、だんだんと上がってくるにつれて通常の学級へというのが今の流れとなっており、保護者の意識が大きいと思う。</p> <p>○ だから、その12.3%という小学校での数字は、本当は中学校へ行っても12%、13%は存在するということが理解したらよいのか。</p>
<p>藤原委員</p>	

指導課教育支援担当課長	○ 診断を受けている、あるいはそれにほぼイコールであろうと学校が判断するお子さんのパーセントは変わらないと思われる。
藤原委員	○ 変わらないのに中学校では約8%となっており、どういう原因なのかを知りたかったのだが。
指導課教育支援担当課長	○ 医療機関や、就学前の機関の意識も大分変わってきた。今の中学校2、3年の子が小学校1年生に上がる前の段階のときには、限られた医療機関だったが、そこがどんどん増えてきているというのが1つの要因である。
藤原委員	○ こういう特別支援の授業のユニバーサル化によって、折り合う子が増えたから困り感を感じることが減って、中学校では表面にあらわれるのが減っているという気もしたが、それは余り関係ないのか。
指導課教育支援担当課長	○ いや、それはもちろん、授業づくりが進んでいっているのは、よい方向へ進んでいると思う。全ての子が学びやすい授業に向かっている。
藤原委員	○ そうだと思う。別に障害がなくてもわかりにくいことはある。いっぱいあるから、それはみんなにとってよいことだから、こういう研究授業というのか事務事業というものは、ものすごく有効だろうなと思ってみせてもらった。
奥津委員	○ 関連して、このような表をつくって、これは特別支援教育の視点を生かしたというわけで、通常の授業を行う際にも十分役に立つというか、逆に通常の授業を行うときにこそ役に立つという気がしている。特にスキルアップをするために、どんな生徒や児童がいたときにこういう対応をすればよいと。マニュアル的な使い方でもできると思ったが、そういった意味で若手の人が、新任のなりたての教員に、こういうものを使っての研修などは検討されていないのか。
指導課教育支援担当課長	○ こういう視点の授業を広めていくことは、教育研究研修センターが行っている初任者研修など、そういう若手の研修などで、この特別支援の橋本先生に講義に来てもらって、特別支援教育の視点を生かした授業づくりについて話をしてもらおうというものは順次行っている。指導案など、これがそのときに使われたワークシートで小1の子が自動車比喩をしている。これを拡大コピーしたものが黒板に張ってあって、生徒は照らし合わせてすごく学びやすい。この行間を広げてあるが、クレーン車のよいところを見つけようというものだが、広げてあって、どうしてそこがすごいと思ったのかというのを書き込めるようにしてある。このようなワークシートが学びやすいということを校内で共通理解をして、若い先生もそれを学ぶということをやっている。
教育長	○ よい授業をする、子どもたちにとってわかりやすい授業をしようとしたら、障害があるかどうかは関係なく、今のワークシートのようなものを使うことを小学校ではよくやる。つまり、よい授業をしようとしたら、当然、障害を持っている子のためにもなるし、その逆も言える。障害を持っている子のためにやろうと思ったら絶対よい授業になる。よい授業というか、みんながわかりやすい授業になる。
教育長	○ 先月は毎年1回ある市の学童陸上競技会が雨で中止になってしまった。滑りやすいのでということで、これは残念だった。
藤原委員	○ 順延はなしか。
教育長	○ 場所がとれないので、中止となる。
教育長	○ 以上で、事業報告を終わる。

7 議事の概要

教育長	○ 12月岡山市教育委員会定例会を開会する。
教育長	○ 本日、傍聴希望者はいない。
全委員	○ <承認>
教育長	○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。
全委員	○ <承認>
教育長	○ 日程第2、11月の議事録があるので、問題なければご署名願う。
全委員	○ <承認>
教育長	○ 日程第3、「次期の教育長職務代理者の指名について」説明をする。 また、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)
教育長	○ 日程第4、非公開となるものはないので、議事に入る。 報告第31号を教育企画総務課から願います。
教育企画総務課長	○ それでは資料の1ページ、報告第31号専決処理の報告についてをごらんいただきたい。 この度の平成29年度岡山市一般会計補正予算(第4号)案のうち、教育委員会分の教育費予算案への同意について、教育委員会に付議する時間的な余裕がなかったため、12月12日に専決処理したものである。 内容については、資料の2ページをごらんいただきたい。 今回の補正予算案は、平成29年度給与改定の内容を反映させた人件費補正である。11月補正予算として、追加上程を行ったものである。 補正の内容の詳細については、資料2、事務事業別説明に、各事業ごとの補正額、科目別金額などを記載しているが、いずれも給与改定に伴うものとなるので、個別の説明は省略させていただく。これらによって、今回の補正額は、総額で2億4,238万7,000円の増額をしようとしているものであり、補正後の第10款教育費の教育委員会分の予算額は455億4,606万8,000円となる。
教育長	○ 報告第31号を承認してよいか。
全委員	○ <承認>
教育長	○ 報告第31号を承認する。
教育長	○ 日程第4、報告第32号を、こども企画総務課から願います。
こども企画総務課長	○ 同じく岡山っ子育成局についての補正予算である。資料6ページである。 これについても、人事委員会勧告に基づき、給料や給料手当等を増額するものである。4月1日にさかのぼって効力が及ぶものだが、幼稚園費で39万4,000円、社会教育費で18万5,000円、合計で57万9,000円の増額補正を行うものである。
教育長	○ 報告第32号を承認してよいか。
全委員	○ <承認>
教育長	○ 報告第32号を承認する。
教育長	○ 本日予定していた議案の審議は全て終了した。 以上をもって、12月教育委員会定例会を閉会する。

傍聴の状況

報	道	0名
一	般	0名